	<p>発 行 者 山梨県公立小中学校教頭会 山梨県公立小中学校教頭組合 事 務 局 甲府市丸の内三丁目33-7 山梨県教育会館内 TEL 055-226-0980 FAX 055-227-9661 E-mail kyotokai@estate.ocn.ne.jp</p>
--	---

## 「働き方改革」に取り組む

教育庁 教育監 市川 敏也

教頭先生方におかれましては、毎日遅くまで校内外を問わず、様々な対応をされ、さらに新型コロナウイルス感染症への対応も、教頭職の「激務」に拍車をかけていることと思います。本当にお疲れ様です。

さて、今年度、「管理職研修 教頭等研修会」でお話する機会をいただき、そこで「働き方改革」についても話させていただきましたが、各校での取組状況はいかがでしょう。

働き方改革の目的には、「教員のこれまでの働き方を見直し、日々の生活や教員人生を豊かにすることにより、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行う。」とあります。すなわち、教員が自分の生活、人生を豊かにすること、自分自身のためにも時間を使うこと、その上で目の前の児童生徒と向き合い、教育活動を行うことではないでしょうか。

確かに「言うは易く行うは難し」です。教員という仕事をしていると「一番は、学校の子供たちで、自分のことは二の次」となることもあります。しかし、何かを変えるためには、本気になって取り組まなければ変わりません。学校の厳しい状況は十分に理解しておりますが、この「働き方改革」については、まさに「本気」が必要です。

教頭先生方には職員室の担任として、改革の推進役となることをお願いしたいです。この働き方改革こそ、教員の生活、そして学校そのものが豊かになる第一歩です。教員が毎日、笑顔で子供たちの前に立てるよう、できることから取り組んでいただきたいと思います。ともに改革を進めていきましょう。

## 「新たな教師の学びの姿」

総合教育センター 所長 篠原 健

教育職員免許法と教育公務員特例法が令和4年5月に改正されたことにより、教員免許更新制が令和4年7月1日に発展的に解消され「新たな教師の学びの姿」が令和5年度から制度化されることとなりました。

令和4年8月31日には、令和の日本型学校教育を実現する「新たな教師の学び」を実現する観点から「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針（以下「指針」という。）」の改正が行われました。改正の趣旨は「変化の激しい時代において、学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、主体性を発揮しながら、個別最適な学び、協働的な学びにより、教職生涯を通じて学び続けるといった、新たな教師の学びを実現する観点から、より効果的な教師の資質向上を図るため」とされています。

この「指針」には、新たな教師の学びを実現していくための仕組みとして、研修履歴を活用した資質向上に関する指導助言等について、その基本的な考え方が明記されています。

また、「指針」の改正により、教師に共通的に求められる資質能力は、①教職に必要な素養②学習指導③生徒指導④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応⑤ICTや情報・教育データの利活用、の5つの柱で再整理されました。山梨県教育委員会においては、上記の教師に共通的に求められる資質能力に基づき「やまなし教員等育成指標」の改定を進めており、本センターにおいては、改定される「やまなし教員等育成指標」を踏まえ、令和5年度の研修計画を立案する予定です。

## 関ブロ研究大会神奈川大会提言

「教育過程の編成・実施の在り方」  
～特色ある学校づくりを進めるために～

富士川町立鯉沢小学校 永井伸二

峡南支部北西部支会では、学習指導要領に示された「資質・能力」を子供たちが身に付けることを目的とし、児童生徒や学校・地域の実態を把握し、特色ある学校づくりを進めていくための教育課程のよりよい編成・実施の在り方や方法について、令和2年度から4年度までの3年間研究してきました。

1年次は、自校の教育課程の全体を把握し、特色ある教育活動を洗い出し、比較し、傾向を探りました。

2年次は、自校の教育活動及び教育課程を見つめ直すために、分析シートを開発・作成し、教育課程の編成の中にどのように生かしていったらよいかを探りました。また、分析シートの有用性についても検討しました。

3年次は、教科横断的な視点について、分析シートを見直し、活用する中で、教頭としてのより効果的な関わり方を探り、実践してきました。

成果として、分析シートを用いることで教育課程での位置付けが分かりやすくなりました。また、特色ある教育活動を学校教育目標や目指す児童生徒像の視点で見直したり、新学習指導要領に合った活動に改善したりする必要があることも分かりました。

「学校運営の活性化と地域との連携」  
～接続可能なCS活動をめざして～

北杜市立明野中学校 飯野敦

北巨摩支部二支会では、「学校運営の活性化と地域との連携」をテーマとして「持続可能なCS活動をめざして」について研究をしてきました。学校・家庭・地域が、その地域の特色を生かして取り組む学校運営協議会（コミュニティ・スクール＝CS）を組織し、学校で行われている活動を「地域とともにある学校の視点」で見直し、教育活動の一層の充実と地域創生が図られる取組としていくことが重要だと考えたからです。

北杜市の学校運営協議会の設置状況ですが、令和4年度からは、市内のほとんどの小中学校に合同の学校運営協議会が設置され、小中で連携を取りながらCS活動を始めています。

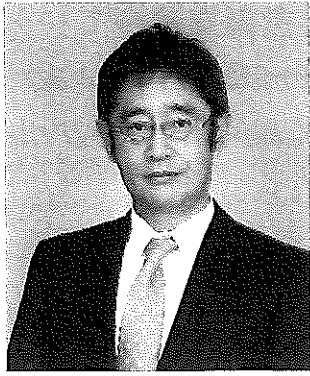
「持続可能なCS活動」にしていくためにも、3つの課題について解決方法を研究してきました。

課題1 「学校運営協議委員の人選」について

課題2 「学校運営協議会の予算」について

課題3 「行政（市教委）との連携」について

上記の3つの課題については、簡単に解決できることはありません。しかし、各地域にあった特色を生かし、家庭、行政、地域ボランティアと協力しながら、工夫を凝らしたCS活動が実施され、各学校の学校教育目標に合った児童・生徒を育てるためにも「持続可能なCS活動」の組織・運営を考えていきたいと思えます。



## 「1年間を振り返って」

山梨県公立小中学校教頭会 会長 山 本 撰

時の流れるのは早いもので、新型コロナウイルス第6波の急速な拡大から始まった令和4年度も、1年間の振り返りを行う季節となりました。

本稿の執筆に当たって、ここ数年間に会長を務められた諸先輩方の振り返りを読み返し、改めてコロナが社会のあらゆる場面に与えた衝撃と、影響の大きさについて実感しています。令和2年度の玄間会長は、振り返りの冒頭、臨時休業に伴い学校に子供がいないなかで新年度をスタートした戸惑いと、コロナ禍における教頭会活動の在り方にかかわる苦悩を述べられていました。また、令和3年度の小池会長は、withコロナ時代の学校づくり、教育活動の推進にシフトしつつも、次々に到来する感染の波にその都度厳しい判断を迫られる学校現場の苦心に触れていました。

そして迎えた令和4年度、ワクチン接種の進展とともに期待された感染症の終息には至らず、12月現在、第8波による感染が拡大しています。そんななか、学校教育・教頭会ともに、この2年間に積み重ねていただいた取組の成果と知見をよりどころとして、一步一步着実に歩みを進めています。各学校では子供の学力保障と豊かな学校生活の再構築に向けてICTの活用、子供のアイデアを生かした行事の工夫等、様々な前向きな試行錯誤が続けられています。そして、本教頭会においても、活動の重点化・合理化を念頭に、県内267名の教頭先生方の全面的なご理解とご支援のもと、5月の総・大会で承認をいただいた運動方針及びスローガンの実現を図る各活動を進めて参りました。一年間の振り返りにかえて、主として研究活動と各専門部活動の歩みを簡略にて恐縮ではありますが、ご紹介させていただきます。

まず、研究活動では、第12期全国統一研究主題の最終年次にあたる研究に取り組んできました。7月には、「第64回全公教岩手大会」が、全面オンラインにより実施され、山梨からも16名の皆様に代表として参加していただきました。遠く離れた全国各地の教頭先生方と、同じ目的のもとオンラインを通じて充実した協議

が行われました。10月には、「山梨県公立小中学校教頭会第56次教育研究集会」を、本県初の試みとなる全面オンラインにより開催いたしました。各支部では、確かな課題認識に基づいた実践的な研究を推進し、今後の教育活動の改善に資する具体的な提言を含む質の高いレポートを提供していただきました。11月には、横浜を会場として、3年ぶりの参集による「第63回関プロ神奈川大会」が行われました。山梨からも32名の皆様に参加をお願いし、特に峡南支部・北巨摩支部には、関東各地の教頭先生方が集まる分科会の場で貴重な提言をしていただきました。

各専門部活動に目を向けると、法制研究委員会では、現在の教育課題及び本県の教育施策の理解、教頭の職能向上等を目的として、義務教育課より秋山克也課長をお招きし、法制研修会を実施しました。調査活動委員会では、市町村教育委員会の協力を得るなかで教育環境整備の促進に向けた調査の実施及び集計、分析を行い、関係各所への要請活動や提言の基礎資料を作成しました。情宣委員会では、多岐にわたる教頭会の活動内容の共有化を図るため、県・支部の活動状況や研究成果に関わる資料収集に基づいて、機関誌「山梨教頭」を2回発行しました。それぞれの委員会では、働き方改革を常に意識しながら既存の諸活動の見直しと改善にもお取り組みいただき、来年度以降の効率的な運営につながる貴重な財産になると感じています。

その他、本会目的の達成に向けた教育4者の連携による第59次県民大行動、国・県・各市町村に対する要請活動等も、全ての教頭先生方の参画のもと大きな成果を得ることができました。

振り返ると、教頭先生方には、本会活動の数々の場面で、惜しみないご尽力を賜りました。お一人お一人の、学校教育に対する情熱、子供・職場の教職員へのあたたかい思い、仕事への真摯な姿勢に敬意を表するとともに、1年間のご協力に心からの感謝を申し上げます。

## 「1年を振り返り」

県教頭会 副会長 田 中 一 弘

学校の在り方や存在意義について幾度となく考えた1年間でした。私たちは、基本的には子供たちが学校に来てくれないと勝負ができません。しかし、不登校児童生徒数は、増加の一途です。学校は、学習指導要領に示された学習内容を児童生徒が十分に身に付ける場ですが、一方で同年代の児童生徒が生活することで、人との関わり方を学ぶ場でもありと考えています。どのような状況にある子供にも「個別最適な学び」が保障されることは大切なことだと考えますが、「個の学び」だけが進んでしまうと、相手意識の希薄化や自分の世界だけで判断した「自己完結」も進んでいくような気がして心配になります。子供たちが学校に来られるようになるために私たちは何をすべきなのか、学校ではどのような学びを保障すべきなのかについて考える1年でした。

変化が激しい時代を生きる子供たちのために、子供や地域の実態など様々な要素に応じて、私たち自身が関わり方や学び方を変えていく必要があるように感じています。

## 「1年間の研究活動を振り返って」

県教頭会 副会長(内研) 内 藤 大 輔

学校では、コロナ禍に授業や会議等でICTの活用が進みました。教頭の業務でもアンケート集計や、オンライン会議に参加ということが日常になってきています。未知のことに挑戦するには不安もありますし、時間もかかります。しかし、教頭自ら率先してICTを活用し、その長所・短所を知ることが大事だと思います。

今年度は研究活動第12期の3年次であり、3年間の研究をまとめる年でした。新型コロナウイルス感染症の状況で、第56次教育研究集会はオンライン開催になりましたが、討議を行い、助言者の方からご指導をいただきました。オンラインでの不具合等ご迷惑をかけた点もありましたが、業務改善につながったというご意見も多々いただきました。今年度の経験を基に、令和6年度に行われる関プロ山梨大会を見据え、来年度からの第13期の研究を進めてほしいと思います。

ご指導・ご助言をいただいた常任助言者の皆様、研究推進委員長・課題別研究部長の皆様、各支部の全教頭先生方の取組によって、3年間、第12期の研究が深化・発展できましたことに、この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。

## 「今年度の各大会を振り返って」

県教頭会 副会長(外研) 諏 訪 啓 太

本年度の全国ならびに関東甲信越ブロックの研究大会も、新型コロナウイルス感染症の影響下での開催となりましたが、どちらも実行委員の皆様のご丁寧な対策により、大会運営がスムーズに行われ、大変有意義な情報共有の場となりました。

全国大会では、開催地である岩手県が大きな災害から復興に向けての努力を積み重ねてこられている経緯もあり、特に郷土への愛や、子供たちが未来に夢をもって過ごすことのできる学校づくりを目指すために、どのようなリーダーシップを発揮していくべきか考える重要な機会となりました。

また、関プロ大会では、10年後の未来を見据えながら、私たちがどのように魅力ある学校づくりに取り組み、子供たちに未来で生きる力を育むか、仲間とともに考え、その成果を共有することができました。

2年後の関プロ大会は山梨県で開催されることとなります。本県でも参加者にとって有意義な大会が開催できるよう、教頭会の仲間とともに努力を重ねていきたいと考えています。

## 「1年間の振り返って」

県教頭会 幹事長 小 林 康 人

新型コロナ対応、働き方改革、ICT活用…教育課題が山積する中、重責を果たせたか不安ではありますが、感じたことをまとめます。

まず、研修や研究は資質向上のために必要不可欠で、全国教頭会研究大会、関プロ大会、県教頭研究大会は、同じ課題を共有する仲間が集う場となりました。共に学び合い、情報共有する機会を大切にしていきたいと感じました。

次に、長期間にわたり要望を練り上げ、環境改善に向け、連携して取り組んだ要請活動です。教育環境や条件を改善するための地道な努力と組織としての力は欠かせません。環境整備に向けた取組の継続性を感じました。

最後に、組織力と連携が教頭にとって大きな武器であることを実感しました。横のつながりを深める教頭会組織及び各会と連携した教育四者の取組は山梨が全国に誇れる組織であり、学校運営の前進につながっていくものでした。

来年度関プロ山梨大会に向け準備を進めます。新しい景色が見られることを楽しみにしています。今年度のご協力に感謝申し上げます。

## 「今年度の活動を振り返って」

全国公立学校教頭会専門部員 宮 川 真

この一年間、全国公立学校教頭会の研究部員として全国大会や中央研修大会、研究部長会の計画や準備、当日の運営にあたってきました。コロナ禍のためオンラインでの活動が中心でしたが、多くのことを学ぶと共に全国の教頭・副校長の様々な取組に刺激を受けました。

参集型では研究部会ですら負担であったと思いますが、オンライン会議により全国に散らばる研究部員が効率的に話し合いを進められたことには感動を覚えました。岩手県での全国大会は、ハイブリッド開催により、参集した方も、オンライン参加の方もそれぞれの立場で参加し同じ機会を共有できました。オンラインでの会議や研修会を通してこれからの業務改善や研究の在り方の可能性を実感しました。

また、全国での取組とその成果や課題を知ることによって教頭としてより広い視野をもって職務に臨むことができるようになったことや、「よりよい学校をつくりたい。」という思いをもって学校運営に取り組む教頭、副校長との交流は、何より大きな力になりました。

このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝申し上げます。

## 「今年度の活動を振り返って」

調査活動委員長 清 水 一 美

今年度も調査活動委員会では、県下すべての教頭先生方を対象に「全公教調査」「県教頭会各種調査」を行いました。この調査は、教育現場の現状や教頭の職務の実態を把握し、データに基づいて具体的な改善方法を模索した上で取り組むことを目的としています。

また、各市町村教育委員会等のご協力を得ながら実施した「義務教育費公費負担状況調査」からは、厳しい財源状況にあっても、児童生徒の教育活動への保護者負担の軽減が図られるようご努力なされている自治体の状況を窺い知ることができました。現在、円安、物価高など経済状況も様々な変化に見舞われていますが、そのことが教育に直結しないように更なる公費負担化を目指していきたいと思えます。

結びに、調査にご協力いただいた市町村教育委員会及び先生方、データの集計やまとめにご尽力いただいた大久保先生に深く感謝申し上げます。今年度の活動が今後の活動及び教育環境の改善につながっていくことを期待します。

## 「法制研究委員会の活動を振り返って」

法制研究委員長 中 村 亮 二

今年度もコロナ感染が様々な行事に影響を及ぼしている状況です。活動が制限される中ではありましたが、法制研究委員会では日々の職務の資質向上につながるように、また、新たな制度や施策・諸課題等についても検討し、提案していけるようにと考え活動してきました。

今年度の活動の一番の変更点は、アンケートを実施する時期を変更したことです。例年5月頃に行っていましたが、新教頭が職務内容を理解し課題が見えてからの方が良いだろうという判断から、2学期以降としました。じっくりと職務内容・課題を見つめられる時間の確保が、私たち教頭の資質向上や効率化につながっていくものと考えています。すぐにその成果は出ませんが、来年度以降少しずつ成果が出てくることを期待しています。

今年度の活動も、多くの方々の法制研修に対するご理解とご協力をいただいた中で、なんとか研究の基本方針に近づくことができたと思っています。日々の仕事に追われる毎日だと思いますが、皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

## 「1年間の活動を振り返って」

情宣活動委員長 清 水 誠 治

これからを生きる子供たちの10年先を見越して必要となる資質・能力を見極め、その育成に向け、強靱で柔軟な学校組織を構築するためには、「学校運営の要」である私たち教頭がその職責を全うすることが不可欠な要素です。そこで、多くの学校において一人職である教頭が相互に連帯し、孤立することなく職務を遂行できるよう、声を掛け合い、知恵を出し合い、「チーム教頭会」として活動に取り組んでいきましょう。これは「山梨教頭142号」に寄稿された山本会長の言葉です。

また、同号で、内藤副会長は、多くの課題を抱え、それを克服する我々を「シン・キョウトウカイ」と称しています。

目の前に山積する多くの課題を抱えつつ、子供たちの未来を見据えて前を向くその姿は、周囲にはどのように映っているのでしょうか。教育を取り巻く状況は変化しても「自分らしさ」は失うことなく、課題解決に向けてこれからも進んでいきたいと思えます。

最後に、今号に原稿の執筆をいただいた先生方に敬意を表しつつ、山梨教頭最終号をお届けいたします。

## 支部活動 一年間を振り返って

東山梨支部幹事長 竹川 俊之

東山梨支部は、中学校の統合により昨年度より1名減の計28名の会員で今年度の活動がスタートしました。4月には総会、その後は、定例の学校運営研究会を8回開催しました。コロナ禍ではありましたが、全て参集の形で開催することができました。学校運営研究会の中では、峡東教育事務所長様の御講話をはじめ、4回の御講話をいただく場を設けました。大変有意義

な機会となりました。課題別研究では、山梨支会・甲州支会に分かれ研究を進めました。第12期の3年目を迎え、実践についての情報交流、成果・課題の共有、まとめを行うことができました。12月には、山梨市・甲州市両教育委員会への要請活動を行いました。真摯で前向きな御回答をいただくことができました。これからも、教頭としての資質向上を目指し、会員相互の連携を大切にしながら、支部活動の推進に努めていきたいと思ひます。

笛吹支部幹事長 河野 紳一

笛吹市学校運営研究会は、6名の新入会員を迎え、19校22名の会員が連帯・協力し、笛吹教育推進の中核となり、様々な場所で活動しています。

引き続きコロナ禍で活動に制限はあるものの、計画通りの計9回の定例会を行いました。定例会においては目的である「教育諸問題の研究及び会員相互の連帯性を深め、他の教育機関と綿

密な連携を保ちながら教育振興に寄与する」を念頭に、研究・要請活動を推進しました。支部内の学校での情報交換を自校に生かすことができ、大変有意義な会になりました。その他にも、管理主事を招聘しての法制研修会や通常の課題別研究をはじめ、先輩管理職を招いての学習会、具体的実践事例の発表をもとにした意見交換交流会も行いました。

今後も支部の特色を生かした持続的な取組を進めていきたいと思ひます。

峡南支部幹事長 望月 基希

新型コロナウイルス感染症の流行が始まり3年目の今年、峡南支部は小中学校26校、教頭27名でスタートをしました。今年もコロナ禍ではありましたが、感染対策をしながら全6回の学校運営研究会を無事に実施することができました。

課題別研究も第12期の3年目を迎え、ブロックごとに精力的に研究を進め、まとめを行うことができました。

10月には法制学習会を行い、法に関する研究

発表を行うとともに、主幹・管理主事である越水久也先生から教頭の職務に関する質問への回答やご指導を頂き、学習を深め、見識を広めることができました。

毎年行っている教育四者会による要望書についても検討を重ねた後、事務局が代表して教育事務所・峡南地区教育委員会連合会へ提出をすることができました。

未だ感染症の終息が見えない中ではありますが、これまでの経験を生かしつつ、会員一丸となって、今後も支部活動の推進に努めて参ります。

中巨摩支部幹事長 堀内 貴司

中巨摩支部は、小35校、中15校、計50校、54名で活動を行っています。(小1校、中3校が複数配置です。)

8月、12月、3月を除く、毎月1回の定例研究会では、全体に関わることはもちろんのこと、各市・班ごとに分かれて情報交換を行い、喫緊の課題の解決に向けて、協議を行うことができました。4つのテーマに分かれての課題別

研究会の他、夏季研修会では主幹・管理主事の宮本和仁先生に「教頭の職務等に関する講話」をいただき、県立防災安全センターにおいて、「避難所運営の図上演習」を行いました。また、若草中学校の河西美代司校長先生を講師に迎え法制研修会を行いました。それぞれ大変勉強になり、日々の教頭としての行動や意識を振り返る良い機会となりました。

今後も、教頭としての資質向上を目指し、皆で力を合わせ、中巨摩教育を推進していきます。

## 北巨摩支部幹事長 小 沢 弘

北巨摩支部では、教頭会定例会を全8回実施しました。今年度もコロナの感染状況を見ながらの開催でしたが、定例会は顔を突き合わせての情報交換の重要性を考え、参集しての開催としました。夏の研修は校長会とタイアップしてのライフプランセミナー、教育事務所の副所長を招いての法制研修を実施しました。

定例会は、後半の課題別研究に時間をかけるため、会議の内容を精選し、研究の充実に努め

## 南都留支部幹事長 深 沢 昭 彦

南都留支部は富士吉田市11校・都留市11校・南都留郡21校の3地区で構成されています。今年度は、渡邊 義之 会長のもと24名の入会者を迎え、49名の会員でスタートしました。年9回の定例会では、県教頭会からの提起や報告、教育課題の検討、情報交換等を行いました。新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、毎回顔を合わせて無事に定例会を開催することが

## 北都留支部幹事長 天 野 時 夫

北都留支部学校運営研究会は、森卓弥会長のもと9名の新入会員を迎え、19人で構成されています。新型コロナウイルス感染症の影響で懇親会や臨地研修は中止となってしまいましたが、定例会は対策を施しながら無事に行うことができました。第1回は富士・東部教育事務所より所長ならびに指導主事をお招きし、教育関連事業の説明や今日的教育課題についての講話をいただきました。第2回は小管中学校を会場に、「小

## 甲府支部幹事長 望 月 光 洋

甲府支部では、青嶋会長のもと新たに新しく教頭になられた会員や、他支部から甲府支部の教頭になられた会員を迎え、42名の会員でスタートしました。今年度もコロナ禍での開催でしたが、感染症対策をしながら予定通り実施することができました。

年9回の学校運営研究会では、各種報告事項の確認や課題についての協議を行い、課題別研究では3か年計画の3年目として、研究部長を

しました。3つの課題別研究が進められましたが、昨年度に引き続き、安全教育、学校運営協議会、学校評価と学校現場にすぐ活用できる研究内容であり、一区切りとなる3年目の研究が大変有意義なものになったと感じております。

今後も北巨摩支部教頭会の活動が、学校現場はもちろんのこと、子供たちの教育活動に生かされる活動になるよう、北巨摩教頭会会員みんなで力を合わせ、努力していきたいと考えています。

できました。

学習会は半日開催のため実施することができませんでしたが、定例会後は3つの地区に分かれて課題別研究会を行いました。

要請活動では、9つの教育委員会に対して精力的に行い、各地域の小中学校教育の充実と発展に向けて成果を残すことができました。

今後も会員相互の連携と協力を大切にし、各校の学校運営や各地域の教育課題解決に生かせる活動や研修に努めていきたいと思ひます。

管村史」の編纂に携わった藤木様に「江戸時代の小管村と江戸の学び」と題して講演をしていただきました。第3回は法制研究会を行い、2本のレポートを基に見識を深めることができました。また、地区教頭会で作成した要望書を、教育事務所長と管理主事に提出しました。第4回は中央研修の還流報告等を行いました。今年度も会員相互の連携を深め、実りある研修を行うことができました。

中心に「教育目標の設定、危機管理、事務の管理」に関する研究を意欲的に行い、3年間の研究の成果をまとめ、会員相互に共有することができました。また、今年度も講師を招いての支部法制研修会は開催せず、紙面で提案・開催いたしました。

今後も、会員相互の連携を深め、研鑽に努め、教頭としての学校運営力の向上を目指し、活動の充実と更なる発展に努めたいと思ひます。

## —山梨教頭会のあゆみ—

- S 34. 8.21 全国教頭協議会発足  
 S 35. 2.15 機関誌「学校運営」を創刊  
 S 42. 7. 1 県教頭会一本化、定期総会、  
 会則決定  
 S 43. 3. 9 県教頭会・教頭組合設立大会  
 S 43. 8.31 教育三者連絡協議会  
 S 44. 1.21 義務教育振興県民大会  
 S 44. 8.11～12  
     県教頭会研修会  
 S 47. 3.20 研究紀要第1号発行  
 S 49. 9. 1 教頭法制化実施  
 S 52. 8. 9 機関誌「山梨教頭」第1号発行  
 S 52.10.26～28  
     全国教頭会山梨大会開催  
 S 60.12. 7 教頭会・教頭組合OB会設立  
 S 60.10.22～23  
     関プロ教頭会研究会山梨大会  
     (県民文化ホール)  
 H 1. 3. 1 県教頭会・教頭組合20周年  
 記念誌発行  
 H 1. 3. 4 教頭会・教頭組合20周年  
 記念式典・祝賀会  
 H 3. 3. 1 「山梨教頭」第50号発行  
 H 3. 3. 4 「山梨教育ビジョン」策定  
 H 7.11. 9～10  
     関プロ教頭会山梨大会  
     (河口湖町民体育館)  
 H 10. 7. 2～ 3  
     教頭会研修会 教育センターを  
     中心に通いの研修となる。  
 H 11. 3. 1 県教頭会・教頭組合30周年  
 記念誌発行  
 H 12. 4. 1 「総合的な学習の時間」導入  
 H 14. 4. 1 完全学校週5日制開始  
 H 18.11. 9～10  
     関プロ教頭会山梨大会  
     (アイメッセ山梨)  
 H 19.12. 1 機関誌「山梨教頭」第100号発行  
 H 24. 3.11 新教育会館へ移転  
 H 27.11.12～13  
     関プロ教頭会山梨大会  
     (コラニー文化ホール)  
 R 2. 3. 1 「研究紀要」第50号発行  
 R 3. 1.31 県教頭会・教頭組合50周年  
 記念誌発行



### ●令和4年度情宣活動委員会名簿●

委員長	清水 誠治	東山 梨	岩手 小
副委員長	中澤 康夫	南都 留	宝 小
副委員長	小俣 里香	北都 留	秋山 中
委員	中込 直樹	笛 吹	境川 小
委員	笠井さゆり	峡 南	早川南小
委員	小野 優子	中巨摩	白根源小
委員	小林 明子	北巨摩	白州 小
委員	桑畑 秀子	甲 府	城南 中
本部	中村 弘和	本 部	奥野田小
事務局長	小林 千澄	事 務 局	県教育会館

### 編集後記

教頭として学校運営に携わっていると、関係諸機関等との連携が大事であり、周囲の支えがあるからこそ、学校は成り立っているということを改めて痛感させられます。

特に、地域の方々への感謝は尽きません。愛校作業への参加、夏季学習会での見守り、そして地域学習での外部講師など、学校のために無償で率先して働く姿は、生徒にとって地域貢献の良き見本となっています。

コロナ禍ということで、まだまだ制限がありますが、このつながりを大切に、地域ぐるみでの教育を心がけていきたいと思えます。

今号発刊にあたり、ご執筆いただきました方々に感謝申し上げます。今後も「山梨教頭」へのご協力をよろしくお願いいたします。

(上野原市立秋山中学校 小俣里香)